

年間特集

思い出の彗星[5] 拾いそこねたナゾの石

石坂千春（大阪市立科学館／中之島科学研究所）

「尋ねまほしき園原や...」^[1]と詠われる歌枕「園原」^[2]（長野県下伊那郡阿智村）に生える「箒木（ははきぎ）」は伝説の植物だが、私が子どものころ、故郷・北信濃では、どの家の庭先にも「箒木（ほうき草）」が植えられていて、乾燥させたものを自家用のほうき^[3]として使用していた。

だから、1976年3月の未明、「千春、ほうきの星を見に行くぞ」とたたき起こされても、まったく嬉しくはなかったし、意味がわからなかった。なにせ私はウェスト彗星が来たとき、小学校2年生だったのだ。

3月の信濃路はまだ寒い。その未明に起こされて、かさばるスキーウェアを着込み、1台の車に祖父母、両親、妹と私、家族6人がギュウギュウに乗り込んでウェスト彗星を見に出かけた記憶がある。

15分ほど走ったろうか、善光寺平^[4]を見下ろす高台から遠く東天を望むと、菅平の山々の上に、それが見えた、はずだ。

ウェスト彗星の印象についての鮮明な記憶はない。ただ、ポーッと浮かぶ姿が幽霊みたいで「怖い」と感じたように思う。

なにより強烈に覚えているのは、彗星を見ているとき、近くの農作業小屋の屋根で、突然、石が落ちたようなコロン！という音がしたことだ。

隕石が落ちてきたのかも！拾いたい！でも真っ暗だし、間に崖があるし、拾えない！

今思えば、近くの木をめぐらにしていたカラスが、騒がしい人間たちを驚かすためにイタズラで石を落としたのかもしれないが、当時は、その場所を通るたびに、あの石はなんだったんだろう？どこにあるんだろう...？拾

いたかったなあ...と音がした屋根の方を後悔の念とともに眺めていたものだ。

実は今でも、その場所を通ると、つつい拾いそこねたナゾの石の方に目を向けてしまう。過ぎ去った幼い日の彗星の思い出である。

[1] の続き「旅の宿りの寝覚の床...」がすぐ思い浮かんだあなたは、きっと信州人に違いない。これは長野県歌「信濃の国」の四番の出だしの歌詞である。ちなみに、信濃の名所を紹介する四番だけ短調に転調する。長野県出身の知り合いがいたら、ぜひ耳元で「信濃の国は...」とささやいてみてほしい。

[2] 新古今集・卷十一恋一に坂上是則の
園原や伏屋に生うる箒木の
ありとはみえてあはぬ君かな
がある。

[3] ほうき草から作るほうきには、柄がない。まさに彗星とよく似た姿をしている（写真はつぼさん



ごさんのブログ
<http://hatecdf.blog63.fc2.com/blog-entry-62.html>より)

[4] 平野の無い長野県では、盆地のことを「平（たいら）」と呼ぶ。

いしざかはる

<http://www.sci-museum.kita.osaka.jp/~ishizaka/>